

中学校の魅力

「ずいぶん前に高校見学を終えている生徒たちがまだ報告に来ていないけど、どうなっているの？」

昨日、学年主任のK教諭に私がこう尋ねたので、早速指導が入ったようです。その日の下校時に、数名の三年生が私の立っている横断歩道脇にやってきました。そして、神妙な顔つきで、報告が遅れたことを丁寧に詫（わ）びました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、高等学校に関する情報を例年のように収集することができません。そこで、三年生を対象に、九月から各高等学校で学校見学会やオープンスクールが開催されています。授業日に行われる場合は、学校を離れての学習ということになりますので、現地で何を学んだかを、参加した生徒たちに報告させることにしています。「昼休みに報告に来るのかなと思って、ずっと待っていたよ。明日も待っているから（校長室に報告に）おいで。」

生徒たちは全員恐縮していました。見ると、彼らはカバンを背負ったままでなく、下に置いて私に正対しています。恐らく、「（下校の）ついでに（カバンを背負ったまま）詫びる」のは失礼だと判断したのでしよう。

そして、カバンを背負ってそのまま下校すると思いきや、彼らの中に、自転車置き場に戻っていく生徒がいたので。「自転車とカバンを準備してから」という自分に都合のよい選択をするのではなく、真っ先に「校長の元へ」と行動した彼らに、私は十分な誠意を感じました。

後でK教諭にどんな指導をしたのかと尋ねたところ、「相手が報告を待っていること」「遅れた今、どうすればよいか自分で考えて行動すること」の2点を話したとのこと。叱るのではなく、気付かせ、考えさせたよい指導だったと私は思いました。

考えてみれば、中学生が日常生活で関わりをもつ相手といえば、仲間、家族、教師がほとんどであり、自分を好意的に見てくれる人たちがばかりです。気を遣ってもらうことは多々あっても、自分たちが気を遣って接することはほとんどないと言えるのではないのでしょうか。

そんな中学生が、K教諭の指導がきっかけになり、校長の私に気を遣いました。これ以上失礼のないようにしようと、自分なりに考えて行動したのです。これが大人になるために必要なスキルだと私は思います。報告は遅くなりましたが、有意義な学びとなったなあと、私はうれしくなりました。

このように、子供っぽさを発揮しながら、少しずつ大人に近づいていくところ、それが中学校だと私は思います。それが中学校の魅力ではないでしょうか。（十二月三日 記）